

企業ニュース 栗田工業

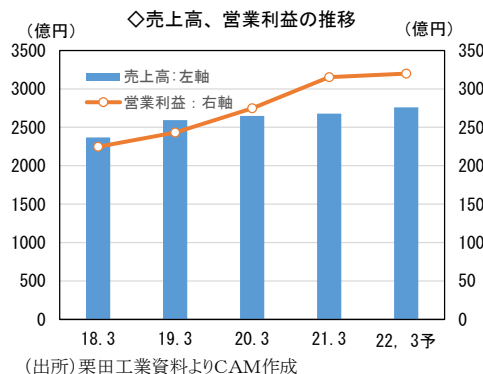
(東証1部：6370) <https://www.kurita.co.jp/>

作成者：奥村義弘

水処理業界のリーディングカンパニー

1949年設立。水処理に関する技術、商品、メンテナンス・サービスを幅広く展開する。株式市場での関心が高い「純水製造装置」は半導体や液晶メーカー向けの他に電力や食品、薬品など一般産業向けも扱う。ハイテク産業向けには、純水製造装置を同社資産として顧客工場内に設置し、運転管理も行う。装置とサービスを組み合わせたサービス契約型へのビジネスモデル転換を図っている。

CSR（企業の社会的責任）を重視した経営姿勢も高く評価されている。同社はMSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数、MSCI日本株女性活躍指数（WIN）などのESGインデックスに採用されている。21.3期の売上高構成比は水処理薬品事業39%、水処理装置事業61%。



受注好調、通期計画の達成確度は高いと考える

22.3期・第1四半期の受注高は776億円、前年同期比19%増、売上高は632億円、同4%増、事業利益が59億円、同5%増。水処理薬品事業は、受注高が292億円、同14%増、売上高が279億円、同14%増、事業利益が32億円、同16%増。製造業の生産活動の回復、中東やカナダでの新規連結などがプラス寄与した。水処理装置事業は、受注高が484億円、同22%増。一般産業向け、電子産業向けの大型案件、超純水供給事業の契約案件増などが寄与した。一方、同事業の売上高は353億円、同3%減、事業利益は27億円、同6%減。韓国、台湾など電子産業向けの売上げが一巡、販管費の増加、バイオガス発電向けでの追加原価の発生、原材料価格の上昇などが減益要因となった。

22.3期の通期会社計画は受注高が2,800億円、前期比7%増、売上高が2,760億円、同3%増、事業利益が330億円、同12%増。会社計画は年度後半の景気の緩やかな回復を想定、年度後半の収益回復を見込む。精密洗浄など好調な電子産業向け受注の動きなどから計画線での収益確保が期待できよう。サービス契約型へのビジネス転換も、M&Aを活用したグローバルでの体制作りなどが着実に進んでいると推察される。

[株価動向・投資判断]

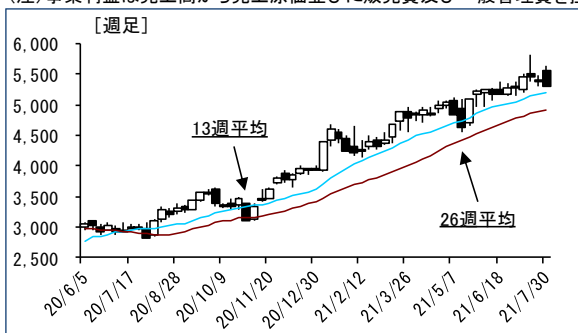
半導体関連の活況、ESG経営推進への関心の高まりなど同社の評価にポジティブな環境。

<6370 栗田工業 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

| | 売上高 | 事業利益 | 営業利益 | 当期利益 | 1株利益 | 1株配当 |
|--------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------|-------|
| | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 円 | 円 |
| 20.3 | 264,807 (3) | 26,654 (4) | 27,479 (38) | 18,287 (52) | 162.9 | 62.00 |
| 21.3 | 267,749 (1) | 29,470 (11) | 31,529 (15) | 19,088 (4) | 169.9 | 66.00 |
| 22.3 予 | 276,000 (3) | 33,000 (12) | 32,000 (1) | 21,100 (11) | 187.8 | 72.00 |

(注) 事業利益は売上高から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除した数値



| [主要株価指標] (売買単位：100株) | |
|----------------------|-------------------|
| 株価 (2021/7/30) | 5,300 円 |
| 年初来高値 (高値日) | 5,820 円 (21/7/14) |
| 同 安値 (安値日) | 3,905 円 (21/1/4) |
| 予想 P E R (22.3 予) | 28.2 倍 |
| 1株株主資本 (PBR算出用) | 2,244.7 円 |
| P B R | 2.36 倍 |
| 予想配当利回り | 1.36 % |
| (1株当たり配当金 72.00円) | |
| R O E (21.3) | 7.7 % |
| 発行済み株式数 | 11,620 万株 |